

本郷先生にお会いできたこと

吹春 公子

本郷先生といえば偉い先生というイメージがいっぱいだった。しかし、実際にお会いしてみると、その一見気難しそうな顔とうらはらに、とても親しみやすく、お話のひとつひとつにとってもひきつけられた。先生の独特のお話しぶりからかもしれない。先生と直接お話できるなんて、なんだかすごい体験をしている！ 千葉菌年に一度の大イベント本郷先生の観察会、また中央博物館主催で開かれた講座にはできるだけ出席するようにし、都合で出席できなくとも懇親会には必ず行くようにした。

観察会では何度か一緒に歩かせていただき、きのこが見つかるとうらやましく本郷先生に直接お見せした。先生は即座に名前を言い当てられた。しかし、幾度かはじっくりとながめたあと「これは、よくわかりませんなあ。」とあっさりお答えになった。脇で腰野会長も「ワカランタケだそうです。」とニコニコしておられる。え～、本郷先生がわからない？？ また、私の問いに対し「これは。に似ていますが、顕微鏡を見ないとよくわかりません。」といったコメントのときもあり、きのこに対する誠実な先生のお姿に接することができた。はじめのころ同定会場で名前のないきのこがあるということが不思議だった。しかもその多さに驚いた。きのこは図鑑に載っていないだけで、きのこ自体には名前がついているものとおもっていたからである。しかし、同定会のあとの



本郷先生の眼鏡をかけて 1995.9.30

講話や翌日の講座のうちに未知種の多さを改めて説明していただいていた。保育社の菌類図鑑にはたくさんのきのこが載っているが、これもまだまだその一部なのだという話を、著者である本郷先生が直接教えてくださった。「もっともっと調べる事がたくさんあります。」同定会終了後の講話のハンドマイクを通した先生の声が耳に残っている。

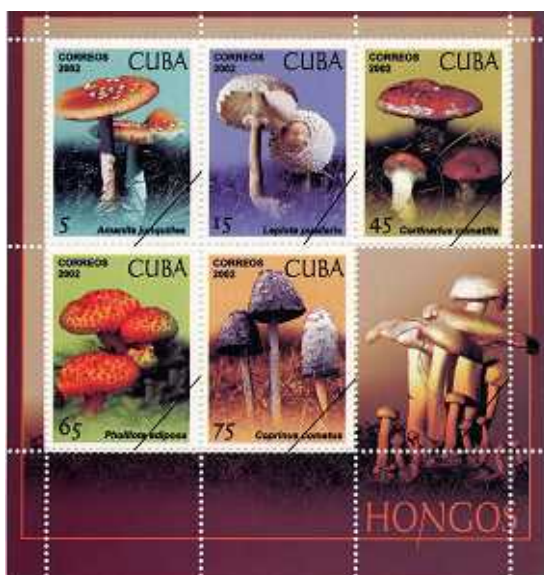
懇親会ではまたさらにいろいろな話が飛び出した。どんな話にも先生は笑って、また真剣にお付き合い下さった。楽しい夜はどんどん深まり、ついには歌の世界へと引きずられていった。本郷先生の十八番「隅田川」にはじまり、「明治一代女」「青い山脈」「宵待草」など、歌と歌の間にあそこはよかったですなあなど思いを馳せる、



千葉菌類談話会の野外観察会・泉自然公園で
2001.10.12

その昔話を聞くのもまた楽しみだった。先生はきのこだけでなく植物も大変詳しく、あるとき「宵待草」の話から月見草、マツヨイグサの話となり、ついには我が家に蔓延るユウゲショウの話に及んだ。すべてアカバナ科の帰化植物である。「庭の雑草をとるときに、つい花がきれいなので躊躇してしまうんですよ。」という、先生は「あれはきれいな花ですなあ、しかし最近は見えていません。」とおっしゃるので、翌日お帰りになるときに、帰化植物の雑草という珍しい贈りものをさせていただいた。別の年のことだが、懇親会に向かう際、着物を着た女の人がすれ違ったことがあった。「先生は洋服と着物、どちらがお好きですか？」誰かの問いに、「着物がええです。」とぼっと顔を赤らめたのが印象に残っている。ユウゲショウを見るとその花色とその顔が重なり、そしてふとあの和装美人画を思い出すのである。

余談になるが、きのこ切手に「HONGOS」と書いてあるものがよくわからなかった。え?? Hongo's? 本郷先生がなにかかわっているのかとさえ思えた。英語ではないらしい。さまざまな辞書を引いてみる。と、スペイン語できのこのことを HONGO と



切手シート:キューバ 2002 年発行 HONGOS

いうことを知った。別の本にはヤマドリタケをオンゴスというとなっていた。残念ながら本郷先生のお名前ではなかったけれど、本郷先生と HONGO、これは天命ですね。真相を知りたいまでも Hongos イコール Hongo's と心の中でひそかに思っています。

このたび先生の訃報に接し、さまざまなことが思い浮かんできました。長きにわたり貴重なご指導をいただき、いらっしゃるたびに千葉(菌類談話会)は楽しいですなあとお褒めの言葉までもいただき、本当にありがとうございました。本郷先生に感謝するとともに心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌。